



信頼とソリューションで存在価値を発揮する三信電気。同社は、シンクライアントをはじめとしたエンドポイントのセキュリティ対策を強化するためにIntercept Xを導入し、国内外20拠点とテレワークなどで全社員が利用している。Intercept Xの導入により、旧来型のセキュリティ対策ソフトの課題を解決し、安全で信頼性の高いエンドポイント利用を実現した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



三信電気株式会社

三信電気株式会社

本 社 東京都港区芝四丁目4番12号
設 立 1951年11月1日
代 表 者 代表取締役 会長執行役員(CEO) 松永 光正
 代表取締役 社長執行役員(COO) 鈴木 俊郎
資 本 金 148億1,139万696円
従 業 員 数 連結 614名 ※2020年3月31日現在
連結売上高 123,085百万円 ※2020年3月期

事業内容 集積回路・半導体素子・一般電子部品等のエレクトロニクス部品及びOA機器、通信機器、映像機器等の電子機器の国内販売・貿易。
 並びにマイクロコンピュータの応用ソフトウェア開発、セミカスタムLSI(ゲートアレイ)のシミュレーション開発

ソフォスソリューションズ

Sophos Intercept X



旧来型のエンドポイント対策では、定義ファイルのダウンロードやスキャンが発生して更新に時間がかかると、業務を急いでいる担当者の中には、強制終了してしまう者もいました。

三信電気株式会社
ソリューション営業本部 第二ICTプラットフォーム技術部
部長 石村 健太郎 氏

エレクトロニクスの総合商社として「技術力」を活かし、より最適なソリューションを提供する三信電気。同社は、電子機器の国内販売と貿易、ソフトウェア開発、AIやIoT等の先端技術の提供や、通信・映像端末機器からインフラ構築までを幅広くインテグレートするソリューション事業を展開している。国内外に20拠点を構え、グローバルな事業を展開する同社では、数年前からシンクライアント端末を導入し、社員の柔軟な働き方をサポートしてきた。その一方で、エンドポイントのセキュリティ対策には、従来型のソフトウェアを利用していたため、その強化が

求められていた。そこで、比類のないエンドポイント脅威対策を実現するIntercept Xの導入を決断した。

ビジネスチャレンジ

「国内外20拠点からテレワークまで全社員のエンドポイント対策強化が急務だった」

三信電気のソリューション営業本部で、Intercept Xの導入に携わってきた堀江氏は、採用の経緯を次のように振り返る。「以前のセキュリティ対策では、すべての

PCにアンチウイルスソフトをインストールしていましたが、デバイスの管理やウイルスチェックなどは、各利用者に一任していました。当社はエレクトロニクスの総合商社なので、現場のスタッフのITスキルは高く、これまでに重大なインシデントが発生するような被害は起きていませんでした。しかし、旧来型のエンドポイント対策では、ウイルス検知のために定義ファイルのダウンロードとドライブのスキャンが発生するので、更新に時間がかかると、業務を急いでいる担当者の中には、強制終了してしまう者もいました。」
エンドポイントセキュリティ対策に課題を抱

ソフォスのSynchronized Securityによるセキュリティ対策は、脅威解析センターによる詳細な分析や自動修復機能などにより、運用管理の大幅な負荷軽減に役立っています。

三信電気株式会社
ソリューション営業本部 販売推進部
部長 堀江 英生 氏



えていた一方で、社員の柔軟な働き方と情報漏えい対策を強化するために、同社ではシンクライアントの導入も推進してきた。堀江氏は「シンクライアントの導入を開始したときに、マルウェアに感染した事例をニュースで知りました。そこで、シンクライアント環境の整備においても、旧来型のセキュリティ対策では限界があると判断して、次世代型のエンドポイントセキュリティ製品の比較を開始しました」と検討の背景を説明する。

テクノロジーソリューション

「セキュリティ性能に加えて運用管理とコストパフォーマンスに優れたIntercept Xを導入」

次世代型エンドポイントセキュリティ製品の選定にあたっては、ビジネスユニットの営業活動を技術面で支援する第二ICTプラットフォーム技術部の担当者も加わり、具体的な比較検討や設計を推進した。検討段階から参画し、現在もIntercept Xの運用を担当している齊藤氏は、選定の理由を次のよ

うに話す。

「旧来型のアンチウイルスソフトは、オンプレミスに対応した製品だったので、海外拠点などリモートでの更新には課題がありました。また、シンクライアントであれば端末の状況も把握できますが、モバイルなどで活用している従来型のファットPCでは、セキュリティの状況をリモートで把握するのは困難でした。こうした観点から、クラウドによる運用管理の必要性を強く感じていました。」同じく技術サポートに携わっている石村氏も、Intercept Xを選んだ理由を次のように評価する。



三信電気株式会社

ソリューション営業本部 第二ICTプラットフォーム技術部二課
エキスパート 齊藤 貴大氏

「従来型では、端末の状態を管理するためにオンプレミスで管理サーバーを運用する必要がありました。しかし、モバイルPCなどを社外に持ち出されてしまうと、管理サーバーとのやり取りが途切れてしまうので、セキュリティ上のリスクになっていました。それに対して、Intercept Xではソフォスセントラルによるクラウドでの一元管理が可能になるので、社内外や国内外に関係なく、インターネットにさえ接続されていれば、あら

ゆる利用状態を確認し、常に最新に保つことができます。このソフォスセントラルによる運用管理の利便性と安全性を高く評価しました。」

優れたエンドポイント保護機能に加えて、クラウドによる一元管理や社内外を問わず、常に最新の状態を保つ安全性などを評価し、三信電気ではIntercept Xの導入を決定した。堀江氏は「機能や性能に加えて、もう一つ高く評価したのは、コストパフォーマンスです。旧来型のアンチウイルスソフトは、端末ごとにIDの契約が必要でした。それに対して、Intercept Xは1IDに対して複数の端末利用が許可されているので、結果的にトータルのライセンスコストを削減できました」と補足する。

導入の成果

「サポートのレスポンスの速さを高く評価」

三信電気では、全社員分のライセンスを契約し、2019年からIntercept Xの利用を開始した。旧来型からの更新を担当してき

た齊藤氏は「海外拠点も含め、全社員の端末をIntercept Xに更新する更新作業はとても容易でした。また、導入時から現在に至るまで、ソフォスのサポートの良さは評価しています。例えば、ソフォスセントラルを見ていて、何か気になるアラートなどが発生したときに、オンラインで問い合わせ内容を送ると、非常に速いレスポンスで解答が戻ってきます。セキュリティに関する問い合わせへの対応の速さは、日々の運用においても大きな安心につながります」と評する。また、石村氏は「Intercept Xに更新してからは、ありとあらゆる利用状況でも、常に端末を最新の状態に保てるようになったので、セキュリティ面での運用負荷が大きく削減されました」と話す。

Intercept Xを導入してから約2年が経過した現在も、インシデントの発生はなくシンクライアントからモバイルPCに至るまで、三信電気の運用するすべての端末は、堅牢なエンドポイントセキュリティ対策を継続している。

今後の展望

「UTM更新のタイミングでXG Firewallを導入しSynchronized Securityを目指す」

今後の取り組みについて石村氏は「現在、XG Firewall とIntercept Xの連携によるSynchronized Securityの検証を進めています。すでに、ソフォスのラボで製品の仕組みやコンセプトなどのレクチャは受けているので、次回のUTM更新のタイミングでソフォスに協力してもらって、XG Firewallの導入を進めていく計画です」と語る。

また齊藤氏は「ゼロトラスト対応製品に注目しています。今後もセキュリティ対策は強化していかなければならないので、ソフォスの新しい製品やサービスは、私たちにとっても心強い存在です。また、ソフォスはオンライントレーニングも充実しているので、自身のスキルアップのためにも、積極的に学んでいこうと考えています」と取り組みを話す。

そして堀江氏は「約2年間の利用で積み重ねてきた技術力や知見を活かして、これからはシステムインテグレータとして、我々のお客様にもソフォス製品を提案していきます。24時間365日の対応で、お客様の環境を監視できるSOCサービスなども強化していきながら、お客様から信頼されるセキュリティパートナーを目指します」と抱負を述べる。

